

平成 24 年（2012 年）12 月 14 日

市 議 会 議 員 様

横須賀市市民安全部長

原子力防災パンフレット「わたしたちの生活と放射線」の送付について

このたび、原子力防災パンフレット「わたしたちの生活と放射線」を作成しましたので、参考として1部お送りいたします。

当該パンフレットは、市民向けに放射線や放射能についての基礎知識や本市の原子力防災対策のほか、福島原子力発電所事故の影響や対応状況など、原子力防災についての内容を広く周知することを目的としています。

今後、各行政センター窓口のほか、原子力防災訓練や出前トークなどの機会をとらえて、配布していく予定です。

（事務担当は、市民安全部危機管理課 内線 1407 直通 046-822-8226）

わたしたちの生活と放射線

～ 原 子 力 防 災 ～

横 須 賀 市

原子力エネルギーは、私たちの生活に身近なものです、
エネルギーを作る時には、放射線も出ます。

放射線を体に受けると、健康に影響がある場合があります。
そのため、原子力施設などでは、放射線が外にもれないように、
厳重な安全対策がとられていますが、事故がおきる可能性は、
ゼロではありません。

このパンフレットは、放射線の基礎的な知識や、万が一、
原子力災害が発生したときの行動などをまとめたものです。

目 次

〔第1章：日常生活の中の放射線〕

- <1-1> 自然界に存在する放射線や放射性物質・・・・・・・・・・P1
- <1-2> 自然放射線量の地域差・・・・・・・・・・P1
- <1-3> 体内、食物中の放射性物質・・・・・・・・・・P2
- <1-4> 暮らしや医療分野での放射線利用・・・・・・・・・・P3
- <1-5> 日常生活と放射線・・・・・・・・・・P4

〔第2章：放射線や放射性物質の基礎知識〕

- <2-1> 放射線と放射性物質・・・・・・・・・・P5
- <2-2> 放射線の種類・・・・・・・・・・P5
- <2-3> 放射線や放射能の単位・・・・・・・・・・P6
- <2-4> 放射線と放射能の測定方法について・・・・・・・・・・P7

〔第3章：横須賀市内の原子力防災対策〕・・・・・・・・・・P9

〔第4章：万が一、事故が起きたら〕

- <4-1> 原子力災害時の対応や対策について・・・・・・・・・・P11
- <4-2> 原子力災害時に皆さんに取っていただく行動・・・・・・・・・・P12

〔第5章：東日本大震災後の横須賀市の取り組み〕・・・・・・・・・・P13

第1章 日常生活の中の放射線

1-1 自然界に存在する放射線や放射性物質

ポイント

ここでは放射線量の単位として「シーベルト」が使われています。

単位については6ページで詳しく説明します。

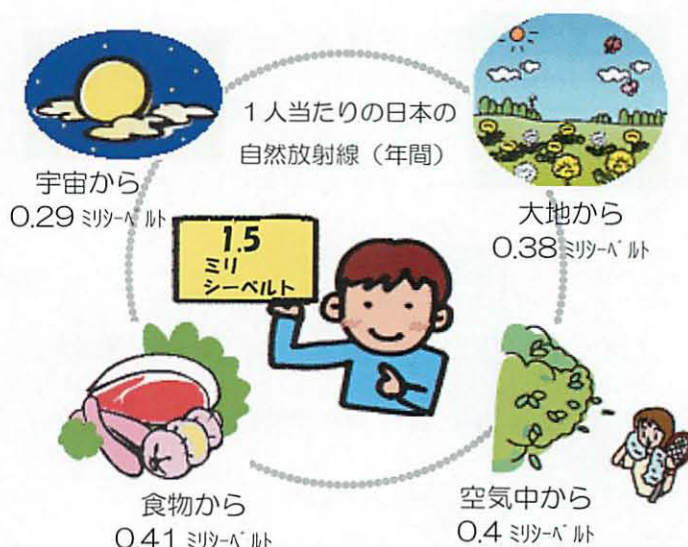
人は、大昔から大地や宇宙からやってくる「自然の放射線」の中で暮らしています。また、私たちがいつも食べている肉や野菜、海藻などにも、微量の放射性物質が含まれています。

これは、土や海水に含まれている放射性物質を動物や植物が取り入れているためです。

人が一年間に受ける放射線の量は、世界の平均値で年間2.4ミリシーベルト、日本の平均値で年間1.5ミリシーベルトとされています。

受ける放射線の量は、国や場所により異なり、年間10ミリシーベルトを超える国もあります。

国内でも住む場所によって受ける放射線の量は異なります。



ポイント

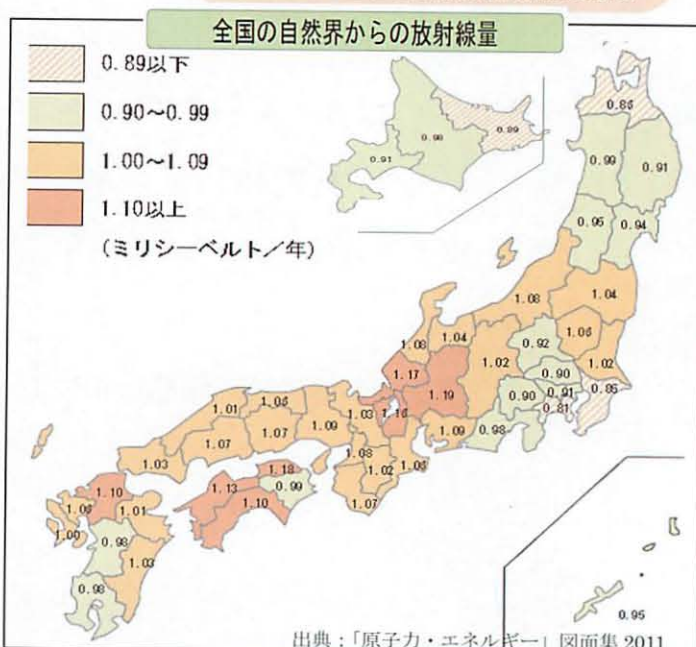
自然から受ける放射線量は、神奈川県が日本で一番低い値であるといわれています。環境や地形の違いによって、わずかですが差があります。

1-2 自然放射線量の地域差

右の図は宇宙や大地の放射線と食物摂取によって受ける放射線量を都道府県ごとに示したものです。

ここでは空気中から取り込むことで受ける影響（ラドン等の吸引）を除き、日本人が生活する中で自然から受ける放射線量を表しています。

東日本に比べ、西日本の放射線量が若干高い理由は、地表やその下の地層に、ウランやトリウムなどの自然由来の放射性物質が多く分布しているためといわれています。



1-3 体内、食物中の放射性物質

わたしたちの体の中にも放射性物質は存在しています。

これは、普段食べる食品の中に、天然由来の放射性物質が含まれているためです。

下の図の中で、食物の中には「カリウム40」という物質が多く含まれていますが、このカリウムは植物の育成に欠かせない元素であるとともに、人体では筋肉の収縮運動や神経伝達など、体内の調整機能を担う重要な栄養素となっています。

ポイント

ここでは体内や食物に含まれる放射性物質の単位として「ベクレル」が使われています。
単位については6ページで詳しく説明します。

●体内の放射性物質の量 体重60kgの日本人の場合)

カリウム40	4,000ベクレル
炭素14	2,500ベクレル
ルビジウム87	500ベクレル
鉛210・ポロニウム210	20ベクレル

●食物中のカリウム40の放射性物質の量(日本)

(単位:ベクレル/kg)



出典:「原子力・エネルギー」図面集 2012



まとめ

日常生活の中にも、自然界からの放射線が存在しています。

また、天然由来の放射性物質が空気中や地層、食物のほかに、人間の体内にもあることが分かります。

そのため、身の回りの放射線量は決して“ゼロ”になることはありません。

このような環境の中で、わたしたちは、日々の生活を送っています。

1-4 暮らしや医療分野での放射線利用

私たちの身の回りには、自然放射線のほかに「人工の放射線」があります。

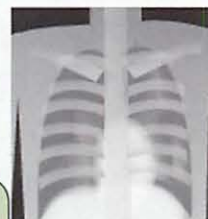
人工放射線は、1895年に、レントゲン博士が「X線」を発見し、現在では医療や農業など、さまざまな分野で使われ、私たちの生活に役立っています。

◆医療での利用（病気の診断、滅菌）

放射線には、物を透過する性質があり、身体の内部的の様子を確認することができます。

骨折箇所の確認や異常のある患部を見つけることなどに放射線が使われており、病気の診断や治療に欠かせないものとなっています。

また、滅菌の信頼性が高いことから、医療器具（手術用のメスや手袋、注射針など）の滅菌にも利用されています。



病院でレントゲン撮影する時も放射線を受けます。

・胸のレントゲン撮影 0.05 mSv 程度

・胃のレントゲン撮影 0.6 mSv 程度

◆農業での利用（花や果物の品種改良）

病気に強い品種や寒冷地に適した新しい品種を作るため、放射線を照射して、人工的に突然変異を起こさせ、品種の改良を行っています。

花の形や色を研究したり、病気に強い果物づくりなどに利用されています。

◆工業での利用（タイヤや非破壊検査などで利用）

プラスチックやゴムに放射線を当てると化学反応を起こし、耐熱性や強度を増すことができるため、自動車のタイヤなどの開発に利用されています。

また、文化財などの貴重品の年代調査や建物の壁や水道管などの内部を調査する際に、物体を壊さずに内部の状況を確認する非破壊検査に利用されています。

その他、身の回りにある放射性物質（微量な放射線を出している物）として次のようなものがあります。※種類によっては放射線物質が含まれていないものも多数あります。

○『ランタンのマントル』

キャンプなどで使用する照明具に使用される発光用の着火布材。
（トリウムなどの放射性物質が含まれているため。）



○『温泉地などの湯の花』

一部の温泉地などでは、お土産の温泉の素として、入浴剤などで売られていることがあります。

（カオリンやラジウムなどの天然由来の放射性物質が含まれているため。）



ポイント

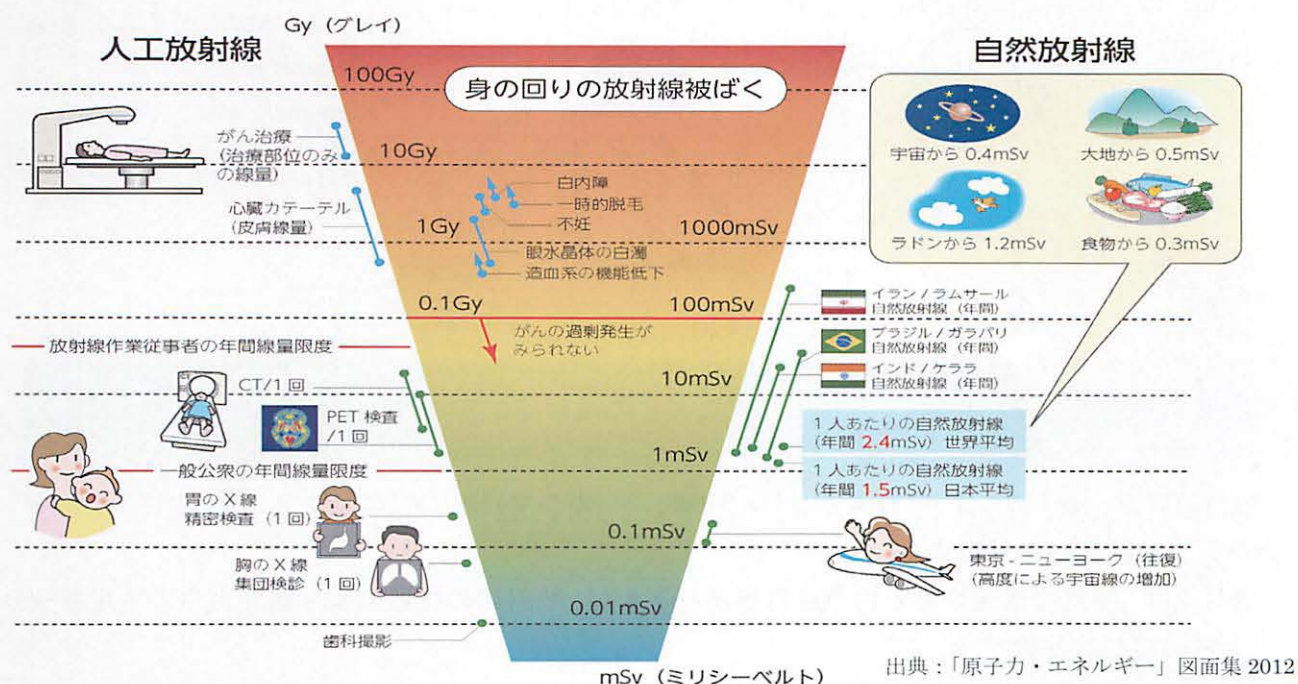
これらは、一般的に市販されているもので、人体に影響を与えるような危険なものではありません。

1-5 日常生活と放射線

私たちは、自然界から年間 2.4 ミリシーベルト（世界平均）を受けていることは 1 ページで説明しました。それ以外にも、日常生活の中では比較的短い期間で放射線を浴びることがあります。

国では、自然の放射線と医療で受ける放射線を除いて、一般の人が通常受けてもよい放射線の量（年間線量限度）を、1 年間で 1.0 ミリシーベルト までと定めています。

日常生活と放射線



◎例えば、次のような放射線を人体に浴びることになります。

- ・胃の X 線検査を 1 回受けると 0.6 ミリシーベルト
- ・全身の CT スキャンを 1 回受けると 6.9 ミリシーベルト
- ・飛行機で東京-ニューヨーク間を往復すると 0.2 ミリシーベルト

まとめ

放射線は、医療機関を中心にいろいろな分野で有効に活用されています。

放射線＝「危険なもの」というイメージを持っていた人は、少し印象が変わったかもしれません。

わたしたちの生活の中には、自然由来のものから人工的な目的で利用しているものまで、さまざまな放射線や放射性物質が存在しています。

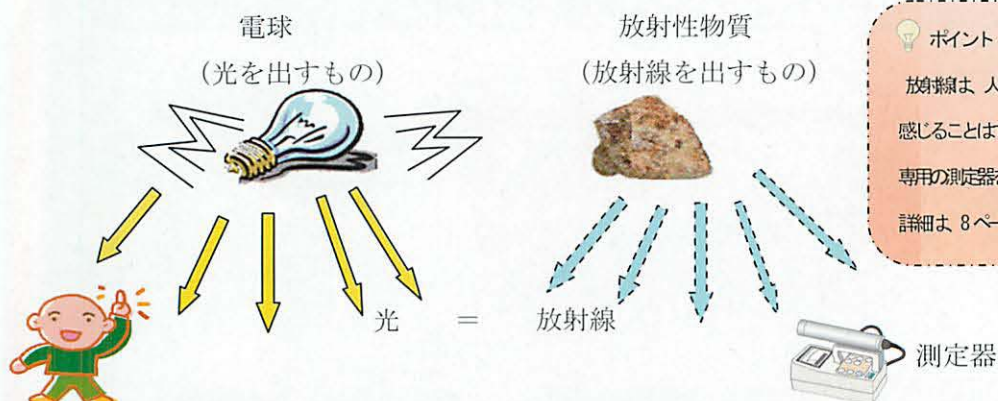
第2章 放射線や放射性物質の基礎知識

2-1 放射線と放射性物質

ポイント

放射能を出す能力を持つ物質を「放射性物質」と呼びます。
そのため、一般的には「放射性物質」＝「放射能」として使われています。(例)放射能漏れ＝放射性物質漏れ

放射線を出すものを「放射性物質」、放射線を出す力を「放射能」と言います。
電球にたとえると、電球が放射性物質、光を出す能力が放射能、電球から出る光が放射線になります。



ポイント

放射線は人間の五感(目、耳、鼻、口(味)、肌)で感じることはできません。
専用の測定器を用いて測ることができます。
詳細は8ページで説明します。

2-2 放射線の種類

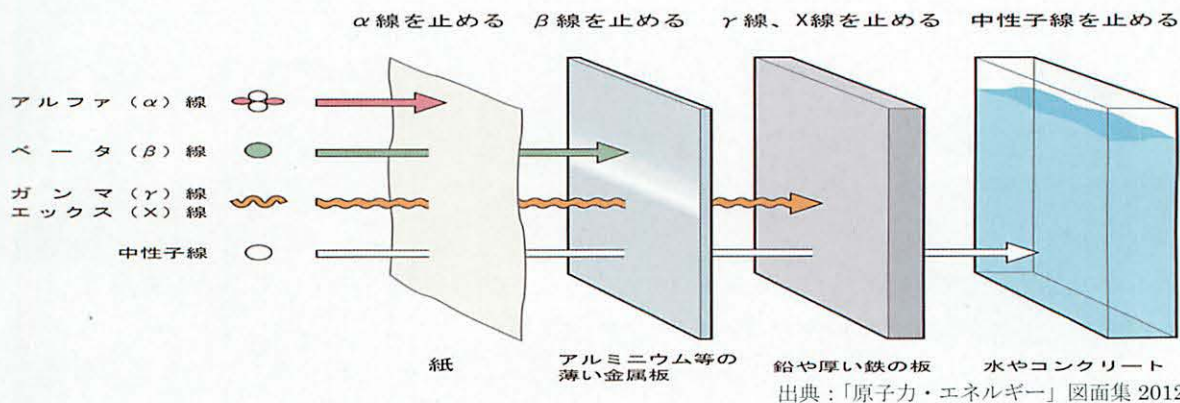
放射線には、 α (アルファ) 線、 β (ベータ) 線、 γ (ガンマ) 線、X (エックス) 線、中性子線などさまざまな種類があります。

放射線は、物質を透過するという性質がありますが、放射線の種類により透過力やエネルギーの大きさに差があります。

α 線は、放射線の中では、物質を透過しにくい性質があり、紙1枚で止めることができます。
透過力が大きい放射線を止めるには、密度の大きい物質が必要になります。

γ 線やX線を止めるには、鉛や厚い鉄の板、中性子線を止めるには水やコンクリートが必要です。

放射線の種類と透過力



2-3 放射線や放射能の単位

ここまで、放射線量を表す「シーベルト」や放射性物質がどれくらい含まれているかを表す「ベクレル」といった単位が出てきました。

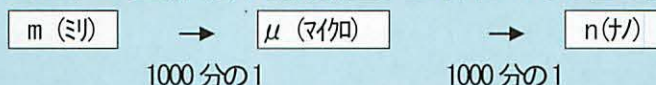
ここでは、放射線や放射能の話をする際によく使われる単位について説明します。

以下の3つが代表的な単位です。

単位	単位の意味 (概要)	使用される内容 (例)	表記例
Gy (グレイ)	放射線の量	空間中の放射線量の測定値 (モニタリングポストの数値など)	 nGy/h (ナノグレイ/時間)
Sv (シーベルト)	人体が放射線を受けたとき、その影響(放射線量)を表す	空間中の放射線量の測定値 (一般的な自然放射線量や人工放射線量など)	 μSv/h (マイクロシーベルト/時間)
Bq (ベクレル)	放射性物質が放射線を出す能力(放射能の強さ)	食品やその他物質にどれくらい放射性物質が含まれているか (1 キログラムあたりに放射性物質がどれほど含まれているか)	 Bq/kg (ベクレル/キログラム)

ポイント①

上記単位の中で、放射線量を表す「Gy」や「Sv」には、その前に「m(ミリ)」や「μ(マイクロ)」など、大きさを表す単位が付くことがあります。これは、日常生活で受ける放射線量などが非常に小さな値であるためです。



ポイント②

ポイント①のほかに、放射線量を表す「Gy」や「Sv」には、そのうしろに放射線を受ける状況に応じて期間を表す「時間」や「回数」などがつくことがあります。

【例】 「μSv/h(毎時=1時間あたり)」 [1時間に受ける放射線量など]	「mSv/年間(1年間あたり)」 [年間に受ける放射線量など]	「mSv/回(1回あたり)」 [X線検査1回で受ける放射線量など]
---	------------------------------------	--------------------------------------

ポイント③

皆さんが日頃耳にする単位は空間中の放射線量などを表す「μSv/h(マイクロシーベルト/毎時)」ではないでしょうか。

下記のとおりモニタリングポストの数値などで使われる「Gy」を「Sv」に簡易換算することができます。(※)

$$43.5 \text{ nGy/h (ナノグレイ/毎時)} \rightarrow 0.0435 \text{ μSv/h (マイクロシーベルト/毎時)}$$

(※注：厳密には、放射線の種類や人体が受ける部位を考慮し、換算する必要がありますが、緊急時においては目安として換算することができます。)

- ・Gy = Sv として換算します。
- ・n(ナノ) → μ(マイクロ)に変換するため、 $\frac{1}{1000}$ 倍し、小数点を左へ3ケタ移動させます。
- ・最後に、小数点第3位以下を切り捨てます。

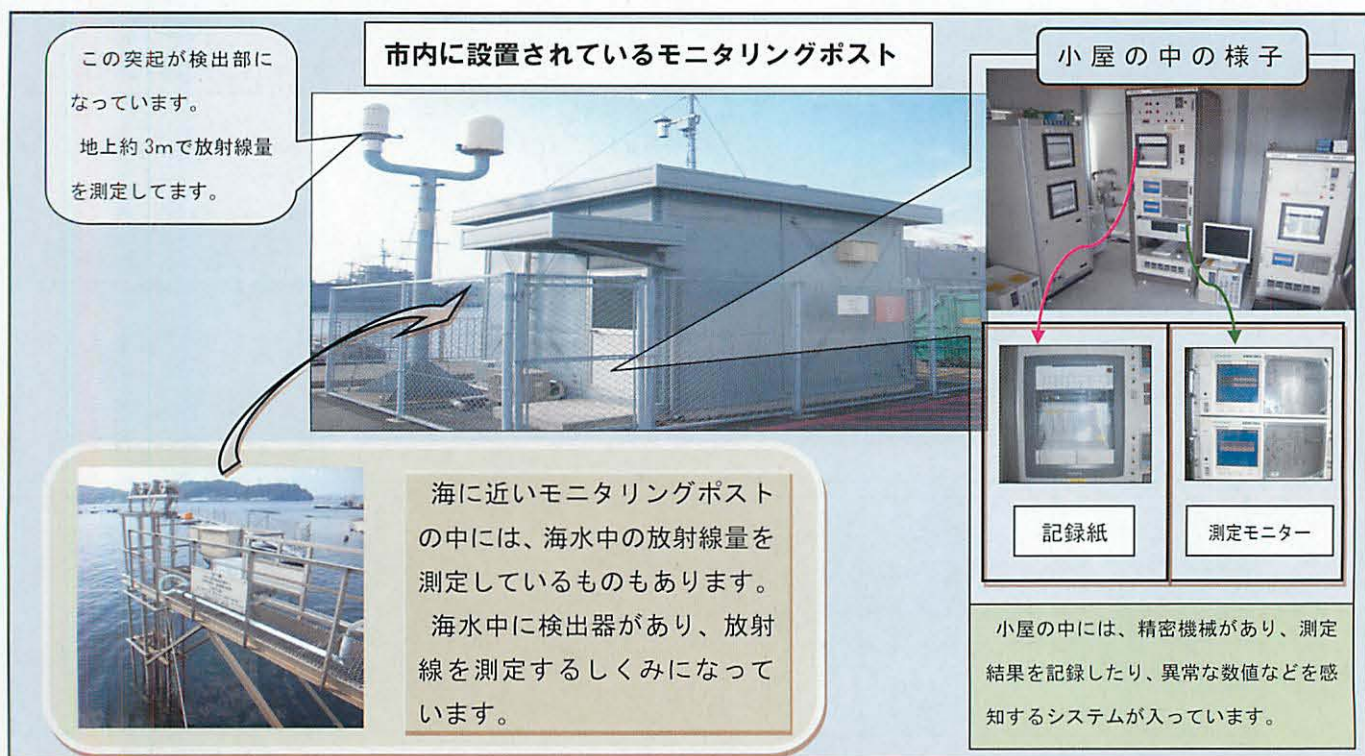
2-4 放射線と放射能の測定方法について

ここでは、代表的な測定機器や測定方法をいくつか紹介します。

◇空間中の放射線量の測定

大気中や空間中の放射線量を測定するには、モニタリングポストによる測定が一般的です。

モニタリングポストとは、無人の小屋型の放射線測定装置で、常に放射線量を監視しており、微量な放射線量の変化（増減）をとらえることができます。



◇空間放射線量（積算線量）の測定

空間中の放射線の積算値（空間線量の一定期間中の合計値）を測るため、『モニタリングポイント』を市内横須賀港周辺6ヶ所に設置しています。

これにより、長期間（3か月間）にどれほどの放射線量が観測されたかを知ることができます。

小さなポストの中には、「ガラス線量計」という放射線を測るための機器が入っています。

回収されたガラス線量計は専門機関で分析され、調査期間中の放射線量の変動を確認しています。



◇放射線測定器について

空間中の放射線量を測定するには、モニタリングポストのほかに、持ち運びが出来る測定器（サーベイメータやポケット線量計など）を使用します。

おもに、身の回りの放射線量を測定しますが、放射線の種類や測定する対象物により、用途にあった測定器を選ぶ必要があります。

下記は、放射線を測る代表的な測定器です。

NaI シンチレーション式 サーベイメータ



- ・おもに地表面付近の空間放射線量を測定する際に使用。
- ・ γ 線の測定に使用。

(※P13の使用状況写真参照)

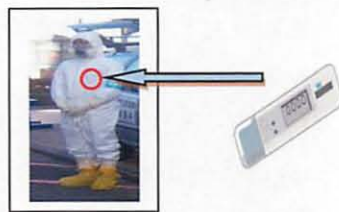
GM 計数管式サーベイメータ



- ・おもに体表面の汚染検出用として使用。
- ・ β 線の測定に使用。

(※P11の使用状況写真参照)

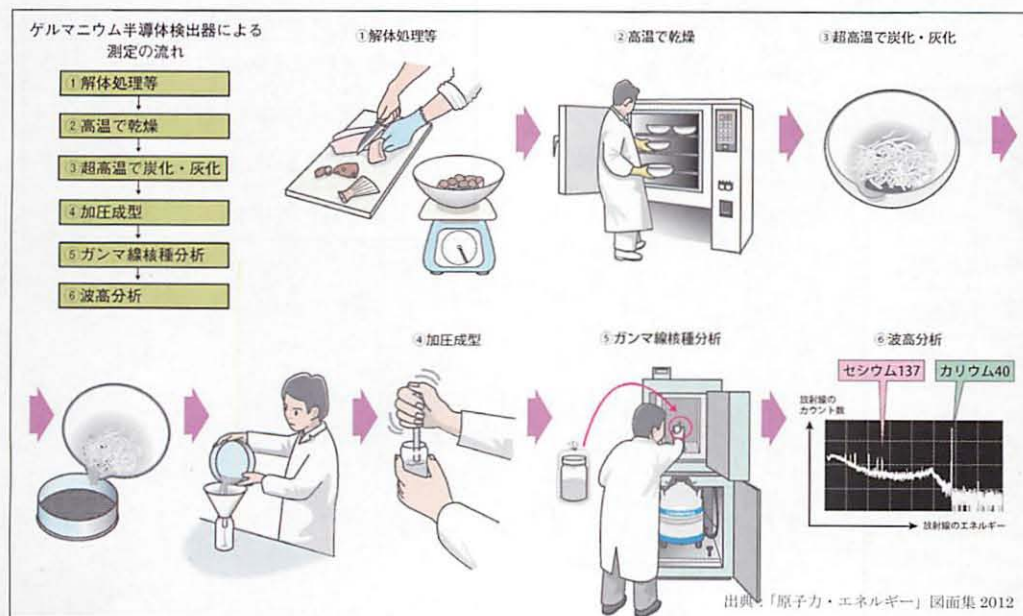
ポケット線量計



- ・おもに作業従事者などの被ばく線量管理のために使用。
- ・ γ 線や中性子線などの測定に使用。
- ・胸ポケットや腰に着用して使用する。

◇食品等に含まれる放射能の測定

物質（おもに食品など）に含まれる放射性物質の種類や量を測定するためには、下図のように、細かい手順を踏んで、専用の測定機器で分析する必要があります。そのため、これらの機器や設備がある専門機関にて測定することが一般的です。



ポイント

左図のような手順により、物質に含まれる放射性物質の種類や量がわかります。

この作業には、半日から1日程度の時間がかかります。

（市内で生産された農水産物の放射性物質の検査結果については、14ページをご覧ください。）

第3章 横須賀市内の原子力防災対策

みなさんは、横須賀市内に2つの原子力関連施設があることはご存じでしょうか。

市内には、原子力発電所で使うウラン燃料などを作る燃料加工工場と、原子力艦が寄港するアメリカ海軍の基地があります。

◆横須賀市内の原子力関連施設

○(株)グローバル・ニュークリア・フュエルジャパン（以下GNF-Jと記載します。）

1967年（昭和42年）に市内内川で操業を開始し、主に国内の原子力発電所用の燃料を製造している加工施設です。

燃料となるウラン粉末を焼き固めて、燃料棒を製造し、各発電所へ搬出しています。

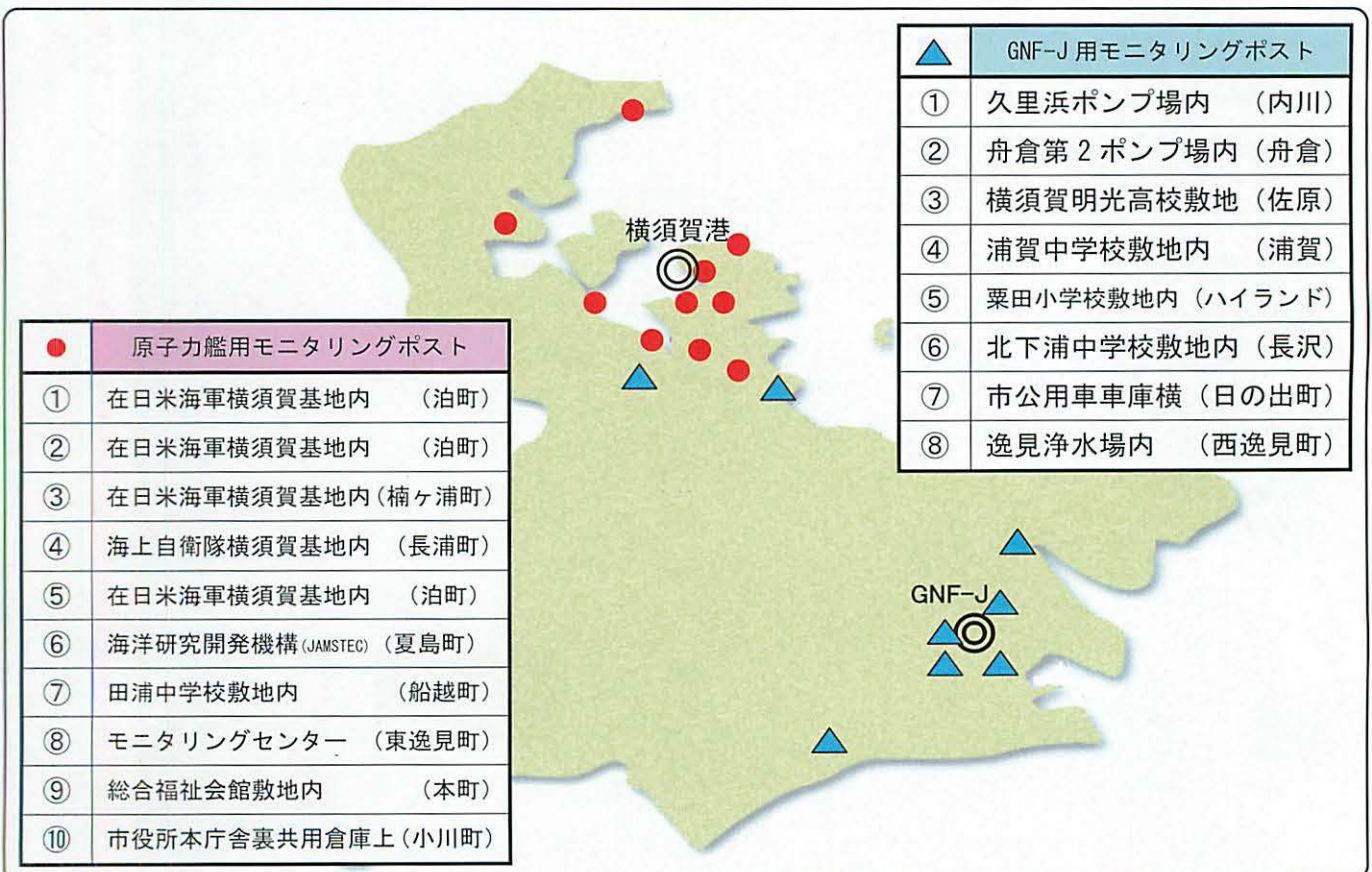
○米海軍原子力艦船

1964年（昭和39年）に初めて原子力潜水艦が佐世保港に寄港して以来、横須賀港、佐世保港、沖縄県金武中城港ホワイトビーチに寄港しています。

2008年（平成20年）9月からは、日本で初めてとなる原子力空母（ジョージ・ワシントン）が横須賀基地に配備されています。

◆モニタリングの実施

市内には、GNF-Jを対象としたモニタリングポストが8カ所、原子力艦用モニタリングポストが10カ所あり、原子力関連施設を取り囲むように設置されており、周辺環境に影響がないことを常時監視しています。



国や神奈川県では、下記のとおり、モニタリングポストで測定した放射線の数値をリアルタイムに、インターネットなどで公開しています。

【GNF-J 対象モニタリング状況】



【原子力艦対象モニタリング状況】



◆原子力防災資機材等の整備

神奈川県および市では、原子力災害に備え、放射線測定機器や医療資機材などを整備しています。

◆医療救護活動体制の整備

万が一の被ばく事故や放射能汚染などによる被ばく患者を受け入れる施設として、市内の横須賀共済病院と市民病院を「初期被ばく医療機関」として指定しており、さらに高度な専門機関として二次、三次被ばく医療機関が県内外に指定されています。

◆原子力防災訓練の実施

横須賀市では、万が一、原子力災害が発生したことを想定し、次のような訓練を毎年実施しています。

◇原子力関連施設の周辺住民や小学校等に参加いただき、訓練を通して原子力防災についての知識を持っていただく、市独自の原子力防災訓練を実施しています。

◇米海軍や政府などの関係機関と連携して、災害対応の対策や手順などを確認するための原子力防災訓練を実施しています。

👍 まとめ

横須賀市内には、2つの原子力関連施設があり、モニタリングポストによる監視をはじめとしたさまざまな防災対策について、国・県など関係機関と連携して取り組んでいます。

第4章 万が一、事故がおきたら

4-1 原子力災害時の対応や対策について

万が一、原子力災害が発生し、放射線や放射性物質の影響が周辺地域に及ぶような場合には、市では、国・県をはじめとした関係機関と連携して、被害を最小限に防ぎ、市民の安全と健康の確保を第一に、防災対策を実施します。

◆災害対策本部等を設置

市では、災害対策本部等を設置し、各関係機関と連携して情報収集を行うとともに、市民の安全対策に重点を置いて、各防災対策を取ります。

◆広報活動の実施

災害時には、できるだけ早く、住民の皆さまに正確な情報を提供します。

防災行政無線や広報車、テレビ、ラジオなどあらゆる手段を使って、事故の状況や取るべき行動についてお知らせします。



◆屋内退避・コンクリート屋内退避、避難

放射線や放射性物質による影響のおそれがある場合、周辺住民に対して建物内に退避するように指示を出すことがあります。これを「屋内退避」といいます。

また、事故の状況によっては、市が設置する避難所まで避難誘導することがあります。これらは、放射線や放射性物質から身を守るために行うものです。

◆避難先では

避難所や応急的な医療措置を行う救護所では、放射性物質による汚染や被ばくの有無を調べ、除染などの措置を講じることがあります。

また、医師の問診等を行った後に、安定ヨウ素剤を配布することがあります。



※安定ヨウ素剤とは

原子力事故によって放出される「放射性ヨウ素」は、体内に取り込むと、甲状腺がんになりやすいといわれています。この放射性ヨウ素を取り込む前に「安定ヨウ素剤」を摂取することで、悪い影響を予防することができる医薬品です。市では対象である40歳未満の市民全員分を市内各施設に分散して備えています。

4-2 原子力災害時に皆さんに取っていただく行動

◆あわてないで市役所からの連絡を聞く

事故が発生し周辺への影響が心配されるときには、どこで事故がおきたのか、どんな事故なのか、避難の必要があるのかなど、市役所から指示が出されます。

市役所の広報車、防災行政無線、テレビ、ラジオなどの放送をよく聞いて、どんな行動をとればよいか確認してください。

デマなどに惑わされず、混乱しないようにすることが大切です。

◆屋内退避したら（建物の中に入ったら）

- ・窓を閉めて、エアコンや換気扇をとめてできるだけ窓から離れて下さい。
- ・手や顔をていねいに洗い、うがいをして下さい
- ・新しい指示や情報が出るまで、落ち着いて待機して下さい。



◆避難する時は（放射線の影響が少ない離れた場所に移動する時は）

- ・避難が必要になるときは、市から避難先や移動方法などをお伝えします。
- ・放射性物質が直接体にふれないように、フード付きの上着や、レインコートなどで体をおおして下さい。
- ・放射性物質を吸い込まないように、タオルなどを水でぬらして、固くしぼり、口や鼻を保護して下さい。
- ・家を出る前に、ガスや電気を消して、戸締りをして下さい。

まとめ

原子力関連施設では、事故が起きないように、厳重な安全対策が取られていますが、万が一、原子力災害が発生した時は、以下の点が非常に重要になります。

○市では、市民の安全を第一に関係機関と連携して災害対策に取り組みます。

その際には、できるだけ早く、市民に向けて正確な情報を伝達します。

○市からの情報や指示をよく聞いて、落ち着いて行動することが大事です。

第5章 東日本大震災後の横須賀市の取り組み

東日本大震災では、地震と津波により東北地方を中心に広範囲で多大な被害が出ました。福島第一原子力発電所では、放射性物質が外部へ放出されてしまう重大な放射能漏れ事故が起きました。

福島から遠く離れた関東地方にも、事故発生から2、3日後には風や雲に乗って放射性物質が届き、各地で微量な放射性物質が検出されたり、空間中の放射線量が微増しました。

市民の皆さまからは、「日常生活にどのような影響があるのか」といった不安の声が多く寄せられました。

そのため、横須賀市では、市内各地の放射線量を測定したり、市内で採れた食べ物や飲み水などの放射能調査結果を随時公表してきました。

その内容はすべて、横須賀市の公式ホームページでご覧いただけます。

○横須賀市トップページ→「東日本大震災関連情報」→「横須賀市に関わる放射線調査」

【URL: <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/shinsai311/houshasen/>】

ここでは、特に市民の皆さまに関連する事項について、紹介します。

◆市内の小学校・中学校及び幼稚園・保育園の放射線測定

特に小さなお子様が生活する場所を中心に、市内各地の教育施設全般について空間中の放射線量を測定しました。

グラウンドや園庭などの地表面付近を測定した結果では、特段高い値は出ませんでした。

また、校内や園内の測定では、側溝の土砂や屋上排水口周りなど、放射性物質がたまりやすい場所の一部において、通常よりは高い放射線量が出るところがありました。

市では、除染基準を決め、上回った場合には、土砂等の堆積物を取り除き、敷地内に埋設する対応措置を取っています。

◆その他市内各施設の放射線測定について

◇市内各地の放射線測定について

既存のモニタリングポストを利用して、市内各地の空間中の放射線量をリアルタイムでホームページ上で公表しています。（※P10 参照）

◇市内各地の公園の放射線量を測定

◇海水浴場（砂浜）の放射線量を測定

◇その他、市有地の放射線量を測定

放射線測定器(NaI シンチレーション式サーベイメータ)
で校庭の地表面の放射線量を測定している様子



◆放射性物質の検査について

検査対象の物質にどの種類の放射性物質がどの程度含まれているかを専用の測定機器を使って調べています。

◇水道水（飲み水）の放射性物質の検査

◇学校や公園のプール及び海水浴場の放射性物質の検査

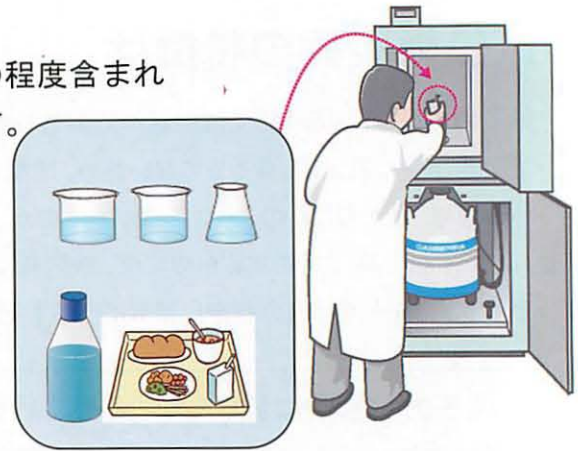
◇学校給食食材の放射性物質の検査

◇市内で採れた農水産物について

神奈川県内で生産された農水産物については、神奈川県が放射性物質の検査を行っています。

そのうち、横須賀市に関連する項目をホームページで公開しています。

下の表はそのうちの一部を抜粋したものです。



採取日	種類	産地（横須賀市内）	放射性ヨウ素	放射性セシウム
2011年 3月 23日	キャベツ	（露地栽培）	不検出	不検出
2011年 6月 6日	カタクチイワシ	（佐島漁港）	不検出	6.7 Bq/Kg
2011年 8月 25日	メバル	（新安浦港）	不検出	9.1 Bq/Kg
2011年 9月 26日	温州ミカン	（露地栽培）	不検出	不検出
2011年 10月 24日	アカカマス	（長井漁港）	0.55 未満 Bq/Kg	4.1 Bq/Kg
2011年 11月 10日	のり（生のり）	（走水港）	0.96 未満 Bq/Kg	2.51 未満 Bq/Kg
2011年 12月 9日	米（精米）	（横須賀市内）	—	0.24 未満 Bq/Kg
2012年 1月 4日	ワカメ（生）	（走水港）	0.49 未満 Bq/Kg	1.21 未満 Bq/Kg

【※参考】 食品衛生法上の暫定規制値 放射性ヨウ素 : 2,000Bq/kg
食品衛生法上の基準値（一般食品） 放射性セシウム : 100Bq/kg

👍 まとめ

福島第一原子力発電所の事故による市民の皆さまの不安を少しでも軽減できるように、これまで様々な地点で放射線測定を実施してきました。

また、直接口にする食物や飲料水などについては、放射性物質の検査を実施したり、県内の農水産物調査結果を公表するなどして、正確な情報をできるかぎり、詳細に提供してまいりました。

今後も、放射線の測定結果や放射性物質の検査結果について、適宜ホームページに情報提供していきます。

原子力災害の特徴は

原子力災害は、事故などで放射線や放射性物質が放出されることによって引き起こされる災害です。

放射線は目に見えず、音も立てないため、地震や風水害などと違って人が感じ取ることができません。

そのため、私たちにどのような影響があるのか、どのように行動をすればよいのかを自分で判断することができません。原子力災害に対処するためには、放射線に関する正しい知識と情報が必要です。自身の判断で勝手に行動せずに、市や国、県の指示に従って行動することが大切です。

原子力災害時に皆さんがとるべき行動

情報に注意する

- 防災行政無線や広報車、テレビ・ラジオなどの情報に注意してください。
- うわさや憶測(デマ)などで、行動しないでください。

住宅などの屋内に入る

- 放射線や放射性物質の量が少ない時は、自宅などの屋内に入るだけで放射線を防ぐことができます。
- 放射線の量が多くなると見込まれる場合は、より放射線の遮蔽効果が高いコンクリートでできた建物に退避します。
- 対象となる地域は、事故の状況などに基づき、市から指示を出します。

避難所への避難

- 避難が必要となる地域と避難の方法などは、市から指示を出します。
- 皆さんは、どこへ、どのように避難するのかを、しっかり確認してください。
- 避難所では、放射性物質による汚染検査や健康相談などを行います。

横須賀市市民安全部危機管理課

電話:046-822-8226 / FAX:046-827-3151

e-mail:ps-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

発行 平成 24 年(2012 年)10 月